

活動紹介

NPO 法人千葉県森林インストラクター会

講座名	緑のおもしろ講座【柏】「植物観察入門」		
開催日時	2021年 4月 25日(日) 10時00 ~ 12時00		
開催場所	あけぼの山農業公園 本館研修室	一般参加者	10名

「生物学」というと、ちょっと敷居が高いが、実際に植物を観察するときに理解しているととても役に立つのが「生物学」。その中でも初心者が植物観察をするときに役立つ「分類学」と「形態学」を、身近な植物である野菜と果物を材料にして、被子植物の特徴・進化・形態についてクイズ形式で進めていった。

まずは、「生物の特徴」から始まり、簡単な植物の分類の説明をしてから、まずは「根・茎・葉編」。ポイントは茎から葉と根が出て、茎は光があたると緑色になることと、根からは側根が出ていること。「野菜で食べているところは根・茎・葉のどれ？」柏の三大野菜であるホウレンソウ・ネギ・カブを含めて8種の野菜を見て考えていった。(結構難しい…)

次に、「花・果実編」。被子植物についての特徴についての説明。シダから裸子植物、そして被子植物から進化していった過程を踏んで、「胚珠(受精後種子になる)が心皮(葉)に包まれている植物」が被子植物。花は、葉(孢子葉)が変化してできた。そして花が受精後果実になることを確認して、またクイズでいろいろな果実を考える。「八百屋で買ってきた〇〇に、雌しべ・雄しべ・花弁・がく片は残っているか？」サヤエンドウを観察して、八百屋で買ってきたサヤエンドウにはそのうちの3つが残り、食べているところは雌しべだということ、みな驚きの顔。さらにアオギリの果実を観察して、心皮が胚珠を包み込んで雌しべを作り、果実となることを確認。

さらに、果実(カキ、リンゴ、モモ)の観察。果実のへたの有無、果実の上のくぼみの有無で、3種類の花(子房上位・子房周位・子房下位)があることを確認した。

身近な野菜と果物を通して、生物学のおもしろさが伝わるようにと工夫してみた。



バナナは、3枚の心皮が融合して1本の雌しべを作っています。だから、こうしてバナナを揉んでやると、3つにわかれるんですよ～。ほら！

F I C 講師 羽根 敏子